

タイトル	古民家再生で未来へ向け農村のストック向上を図った「佐渡古民家ステイ さどまり 泉の家」	
設計	(株)JWA 建築・都市設計	施工
		伊藤建設(株)

所有・建方形式	持家一戸建
構造	在来木造

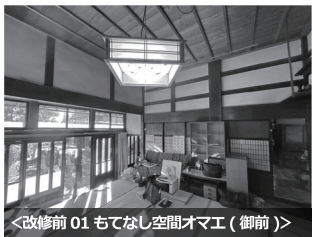
講評	佐渡の築後100年を超える古民家を、中長期滞在型家族旅行向け1棟貸し宿泊施設への再生である。大黒柱のある土間リビングで暮らすように滞在する時間は、佐渡の記憶として心に刻まれ、交流人口の創出を後押しするだろう。第3弾への繋がりを期待する。
----	--



エントランスとリビングは土間空間とし、柱・梁・小屋組を現しとした。ダイニングへ上がる階段には、かつて「オマエ（御前）」で使われていた木材を再利用し、住まいの記憶を現代へと受け継いでいる。



劣化した柱脚部や梁を適切に補修・補強し、壊した漆喰壁を練り直し再利用するなど、日本の大工工事の伝統手法を採用すると同時に、床暖房の導入・断熱改修・建具更新により、冬季にも快適な滞在環境を整えた。



<改修前 01 もてなし空間オマエ（御前）>



<改修後 01 大黒柱を現わし皆が集うダイニングへ>



<改修前 02 奥の間では仏壇と床の間が並ぶ>



<改修後 02 閉眼快眠を満ませ床の間のある寝室へ>

01 フェリー運航の「佐渡汽船」が新規事業で重要な農村風景保全を始めた

佐渡島の空き家率28%は、全国平均（13.4%）を大きく上回りちくは急さが際立つ。地域興しのために「待ち」の姿勢から「攻めの姿勢」へ。人口減少が否応なく進みつつある佐渡島でWin-Winな改善を目指そうと「空き家」を転生して人を呼び込む新たな産業興し「さどまり」を開始した。

世界遺産、世界農業遺産指定がなされており、そもそも豊かな地域性のある佐渡。コト消費が自ずと促される。

島外からの観光客は、佐渡の風景や暮らしの記憶を丸ごと味わう建物コンパウンド（納屋や土蔵含む）にて、密実な「コト消費」を味わい尽くす

古民家ステイさどまりの面期的意義を地元で理解してもらう事。地域に溶け込み愛され、宿もまた共に育っていく関係を構築したい

密実な「コト消費」は大きな魅力。リピーターとなって頻繁にステイ⇒来島⇒宿泊⇒地元消費⇒地域経済波及⇒定住促進⇒フェリー運航持続という経済循環の起点に。

来島手段として佐渡汽船を必然的に利用

「壊したくない」と旧所有者の想いを汲んで「さどまり」として古民家ステイ一棟貸し宿へと転生⇒積極攻勢へ

古民家ステイ「さどまり」の【地元目線ツーリズム体験】すなわち成熟社会ならではの【暮らしのような滞在体験】を提供

本土と島を結ぶ唯一の船舶運航を担う佐渡汽船

02 トキが育つ平和な田園風景、美しい集落での密実なステイ堪能

一棟貸し宿の古民家再生事業に乗り出す。地域の記憶、農村景観を尊重しデザインを丁寧に。空き家転生で廃墟化を防ぎ景観保全。古民家を観光資源として積極活用し、来島者に離島ならではの滞在体験を提供。地域住民や文化との繋がりを尊重した「地元目線ツーリズム体験」にて魅力を増進。リピーターづくりを図る。

03 成熟時代「質」を求める宿泊ニーズへ応答

現代では団体旅行が激減。代って静謐な宿泊体験が好まれ、特に中長期滞在型家族旅行客には昔ながらの団体旅行客向け宿泊施設は避けられる傾向にある。佐渡島の風景や暮らしの記憶を丸ごと味わう場に密実な「コト消費」を古民家ステイで楽しんでもらいたいと考えデザインチューニングを念入りにした。

佐渡汽船さどまり事業第2弾「一棟貸し宿「さどまり泉の家」」

古民家旧所有者⇒思い出のある＝生きられた家を壊したくない。転生できないが

04 第2弾まで展開し、地域再生モデルとしての有効性が実証されつつある

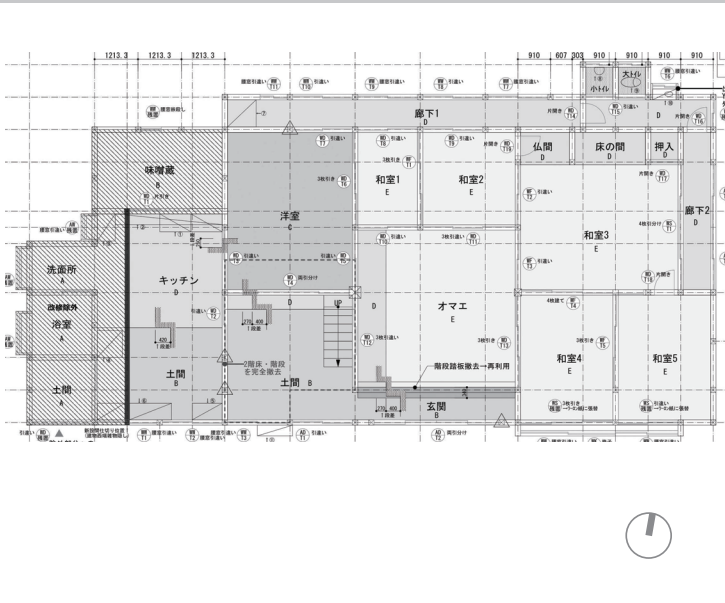
佐渡島喫緊問題を解決しようとしたこの取組みは継続すべき。「泉の家」とした本件さどまり第2弾によって事業手法が明瞭化。空き家転生の古民家ステイで来島者増加を期待。意義深く地域再興を目指し始めた。

05 さどまり泉の家は地域再興保全のデザインモデルとなり次々展開される

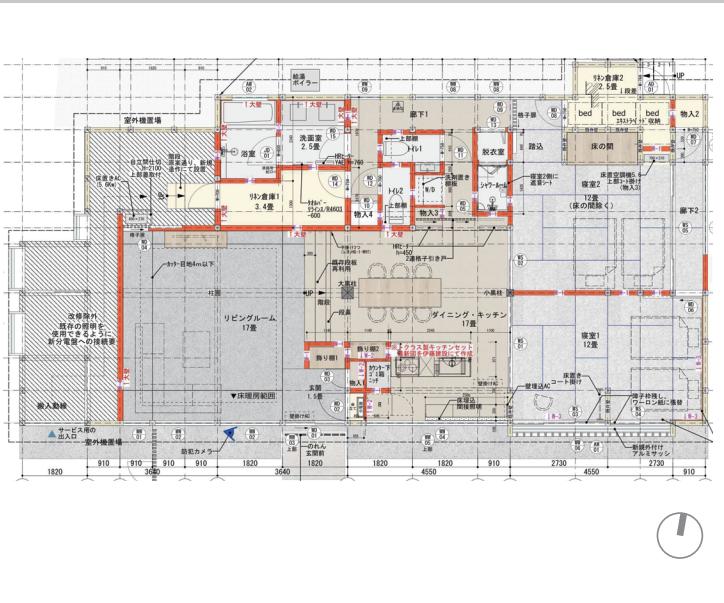
さどまり大和の家 第1弾開業
佐渡島の金山が世界遺産登録
さどまりプロジェクト発足
さどまり泉の家 第2弾開業
第0弾開業
第0弾開業

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容	
人口減少と高い空き家率(28%)が進む佐渡島では、衰退を感じさせる農村風景の「欠け」が地域課題となってきた。本計画は、長年にわたり地域の営みや家族の記憶を育んできた築100年を超える古民家を、一棟貸し宿泊施設として再生することで、打ち捨てられがちな住宅ストックを地域の未来資産へ巧みに転換すること図った。設計にあたっては、母屋だけでなく納屋・土蔵・庭を含めた農家本来の佇まいを一群として継承し、地域の記憶や農村景観を継承する再生を行った。一方で、天井を取り払い小屋組を現しとするなど、古民家が本来持つ空間の魅力を活かしながら、現代の滞在ニーズに応える非日常性と快適性を付加している。ありきたりの宿泊施設へと用途転換するのではなく、成熟社会を見据え「暮らすように滞在す	る」という現代的かつインターネットに支えられた新ライフスタイルを目指した。本計画は単体のリフォームに留まらず、佐渡汽船が継続的に展開する古民家再生プロジェクト「さどまり」の第2弾である。空き家活用による交流人口・関係人口の創出、地域事業者との連携、農村景観の保全を図るとともに、地域経済の循環を生み出すこと、それによって地域を継続的に向上させること、以上により持続的モデルの構築を急じた。開業初年度(2025年3月～2026年3月)の宿泊実績では、冬季に大きな閑散期を抱える佐渡島において宿泊率50%を達成し、空き家再生による地域資源活用モデルとしての事業性と継続可能性を示した。現在は第3弾への展開も視野に入
入れつつ地域に根ざした古民家再生事業をさらに継続・展開しようとしている。	

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位：■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■クローゼット/ □マンション共用部分/ □その他